

4 資金不足発生の要因

項 目	内 容	容 容	
○入院患者の減少 ・在院日数の短縮による入院患者の減	各年度年延べ患者数 (13年度 140,497人)	対前年度	
	14年度 133,845 人	7,012 人	
	15年度 132,825 人	1,020 人	
	16年度 125,078 人	7,747 人	
	17年度 108,701 人	16,377 人	
	各年度一般病床平均在院日数		
	14年度 20.3 日		
	15年度 18.5 日		
	16年度 17.2 日		
	17年度 17.7 日		
	各年度入院収益額 (13年度 4,134,365千円)	対前年度	
	14年度 3,858,577 千円	275,788	
	15年度 3,874,658 千円	16,081	
16年度 3,758,063 千円	116,595		
17年度 3,316,726 千円	441,337		
○14年度診療報酬のマイナス改定 (- 2.7%)	13年度と比較しての減収額		
	14年度 275,788 千円		
	15年度 259,707 千円		
	16年度 376,302 千円		
	17年度 817,639 千円		
○産婦人科休診 (17年4月より)	17年度のうち常勤産婦人科医2名減の影響額		
	患者数	収益額	
	16年度入院 7,253 人	337,178,617 円	
	17年度入院 68 人	7,944,021 円	
	差額 7,185 人	329,234,596 円	
○外来患者の減少 ・患者負担割合のアップ ・投薬の長期投与の増加 ・予約診療開始に伴う患者の減	各年度年延べ患者数 (13年度 320,953人)	対前年度	
	14年度 314,072 人	6,881	
	15年度 300,601 人	13,471	
	16年度 280,371 人	20,230	
	17年度 222,026 人	58,345	
	各年度外来収益額 (13年度 2,420,290千円)	対前年度	
	14年度 1,901,322 千円	275,788 千円	
	15年度 1,682,245 千円	219,077 千円	
	16年度 1,693,329 千円	11,084 千円	
	17年度 1,493,416 千円	199,913 千円	
	○14年8月から全面院外処方実施のため投薬料収益減		
○14年診療報酬のマイナス改定 (- 2.7%)			
○産婦人科休診 (17年4月より)	17年度のうち常勤産婦人科医2名減の影響額		
	患者数	収益額	
	16年度外来 13,850 人	97,023,689 円	
	17年度外来 5,104 人	27,858,404 円	
	差額 8,746 人	69,165,285 円	